



TITLE:

<大會抄録>宋代の私鑄錢

AUTHOR(S):

宮澤, 知之

CITATION:

宮澤, 知之. <大會抄録>宋代の私鑄錢. 東洋史研究 1991, 50(3): 480-480

ISSUE DATE:

1991-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/154372>

RIGHT:

を明確にしたい。ついで、とりわけ問題と思われる「小高句麗國」の建國について再検討を加え、七世紀末の遼東情勢を再構成しつつ、日野氏が建國を示すとされた事件がそうではないことを明らかにしてみたい。

宋代の私鑄錢

宮澤知之

宋代貨幣の第一の機能は、私見によれば國家的支拂手段（官僚・軍隊への俸給支拂、和糶和買代價の支拂、租稅徵收）にあり、それに基づく信用を基礎として一般的交換手段としても機能した。つまり國家が最終的には必ず受け取るという國家的信用が、國家と社會の間の物流關係を媒介し、また孤立的な農村市場を全國的流通に組織する貨幣の役割を保證したのである。このような意味をもつ國家發行の貨幣にとって私鑄錢の發生は、その信用を脅かす重大な問題であった。本報告は、對象を小平銅錢にのみしぼって、その私鑄錢發生の原因、流通狀況、宋朝の對策等を検討し、好錢私鑄は經濟的に成り立たないこと、民間市場では惡錢私鑄は限られた通用力をもつが基本的には排除されたことを論じる。そして、このような狀況は、唐五代における貨幣流通の二元性（國家との貨幣支拂關係における好錢の使用、社會における惡錢の流通）と異なつて、國家と社會の間の貨幣流通と社會内部の貨幣流通とが二元化せず、官錢による統一が實現していたことを主張する。

近代中國農村の經濟とテクノクラート

川井 悟

「半封建半植民地經濟」と性格づけられてきた一九二〇年代から三〇年代の中國農村。この農村地域にも商品貨幣經濟は着實に浸透しつつあった。ますます深刻化する土地問題、商業・高利貸の問題から、家族・同族・村落の人間關係、政治權力の問題、教育の問題、はては農業生産力の低位および飢餓の問題にいたる一連の難問題を、政治權力の變革や人間の意識の變革によらずに、主として經濟政策や經濟活動の基盤をなす基礎構造の建設によって「解決」しようというのが經濟テクノクラートたちの方策である。

本報告は、一九二〇—三〇年代に、華洋義賑會、全國經濟委員會およびその周邊の經濟テクノクラートたちによって試みられた經濟建設政策のいくつかの性質について述べんとするものである。

一九二〇年の大旱魃をきっかけに河北省で農村信用合作社を普及させ各地で土木工事を行った華洋義賑會、一九三一年以來公路建設や水利土木工事を実施し、棉花・蠶繭・茶葉の品質改良を行い、中國各地各業の經濟調査と改善案を發表した全國經濟委員會は、そうした經濟テクノクラートが多く集まった機關であった。彼らの残した報告書をもとに活動項目を羅列したり、數々の成果をその限界ゆえに一言で片づけることは容易である。ここでは、實際の政策實施にあたつての彼らの専門的技術的意見と、社會經濟システムに關係する發言を再吟味したいと思う。